

聖書日課 『からし種』 2024.3.17-3.24

<p>3月17日 (日)</p> <p>詩編 119編 153~176</p>	<p>「あなたの御手はわたしの助けとなるでしょう／あなたの命令を選び取ったのですから」(173節)。私たちは、主に無理矢理従わされたのではなく、命を得るために自分から主のご命令を選び取った者。それなのにいつも小羊のように迷い出してしまう私たちを探し出し、御手を伸べてくださる主イエスを知るとは「いかに幸いなことでしょう」。</p>
<p>18日 (月)</p> <p>詩編 120編</p>	<p>「主よ、わたしの魂を助け出してください／偽って語る唇から、欺いて語る舌から」(2節)。この節だけ見つめていると、自分自身の偽る唇、欺く舌からの魂の解放を祈る叫びであるとも受け取れる。わたしたちが主の平和を語れるように、鋭い矢・心を食い尽くす火矢のような言葉も黙って受けてくださったキリストに、戦いしか語れないわたしの魂の救いを求める。</p>
<p>19日 (火)</p> <p>詩編 121編</p>	<p>「わたしの助けは来る／天地を造られた主のもとから」「どうか、主があなたを助けて足がよろめかないようにし／まどろむことなく見守ってくださるように」(2-3節)。苦難の中から主の助けを確信した人を、他の人たちが祈りで応援する美しい呼び交わし。この季節、新しい環境に出て行く友に今日の詩編を贈ることが多いのではないだろうか。</p>
<p>20日 (水)</p> <p>詩編 122編</p>	<p>「わたしは言おう、わたしの兄弟、友のために。『あなたのうちに平和があるように』」(8節)。一昨日から、【都に上る歌】という題の詩編を読んでいる。今朝は、神の都、礼拝する地に立つ喜びが歌われている。あなたに主がくださったその場所で今礼拝するあなたのうちに、平和があるように。きっと、そこが、世界への平和の発信基地のひとつとなるだろう。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2024.3.17-3.24

<p>21日 (木)</p> <p>詩編 123編</p>	<p>「わたしたちを憐れんでください。主よ、わたしたちを憐れんでください。わたしたちはあまりにも恥に飽かされています」(3節)。心がつらくて祈れない時は「主の祈り」、というが、それすら祈れない時がある。そんな時にも残されている祈りは「主よ、憐れんでください」ではないだろうか。友の苦しみにかける言葉がない時も、誰かを赦せないほどの憤りにある時も。</p>
<p>22日 (金)</p> <p>詩編 124編</p>	<p>「わたしたちの助けは／天地を造られた主の御名にある」(8節)。121編(19日)で、わたしの助けは「来る」と信じたその信仰が、今日の詩編で、わたしたちの助けは「ある」との悟りへ運ばれたのだろうか。「わたし」を見つめたその目が「わたしたち」へ広げられる。深い黙想から起こされる互いの執り成し合いの中に、私たちの助けは「ある」のだろう。</p>
<p>23日 (土)</p> <p>詩編 125編</p>	<p>「主よ、良い人、心のまっすぐな人を／幸せにしてください」(4節)。複雑な思いをを起こさせる詩編。私たち皆「良い人、心のまっすぐな人」になりたくて、「悪者」を責める激しい言葉が止まらないからだ。「自分が悪かったのかな?」「あの人にも何か事情があるのか?」と多少揺らぐくらいが幸せなのではないか?主が傷ついた両手で囲んでくださる世界観の中で...</p>
<p>24日 (日)</p> <p>詩編 126編</p>	<p>「涙と共に種を蒔く人は／喜びの歌と共に刈り入れる」(5節)。「種を蒔く人の涙」はどのような涙なのだろう。飢饉の時に種もみを取り分けることは、口に入れる麦を減らすことであり、大変な葛藤と犠牲が伴うという。それでも「神が導かれる救い」に信頼し「種を蒔く」ことは「希望」の働きなのだ。今日、世界中でささげられている「涙と共に種を蒔く働き」を覚えて。</p>